

今年50歳。
節目の年に
新たな挑戦を！

35号のテーマは
再生と進展です。

Go! 剛! NEWS!!

政務調査報告書

第35号

■都市再生で定住都市むなかたの実現を！

令和5年度の施政方針(市の考えや方向性を示したもの)の最終目的は「定住都市むなかたの実現」です。そのために都市再生の推進が重要であり、**団地の再生と公共交通**がポイントです。宗像は立地がよく、自然、歴史、食などコンテンツに恵まれ、住環境が整っていますが、満遍なくいい、なんとなく住みやすいまち、のイメージがあります。定住都市むなかたを実現するには、コンセプトを明確にして、ブランディングを行い、価値を伝えることが必要です。

団地の再生において、日の里地区都市再生ビジョンは、JR東郷駅周辺の土地利用や日の里大道りの一体的な活用などを日の里地区まちづくり委員会等の意見を反映し作成されます。駅前のエリアマネジメントに取り組む団体はひのさと暮らしLABOとCoCokaraひのさとを運営する特定非営利活動法人まちづくり宗像が担います。私もこの団地再生チームのプレイヤーとして同心協力します。



さとのはhinosatoは「人と自然を近くする、サトヤマのある日々」というコンセプトにより、同じ価値観を持つ方が反応し、驚異的なペースで入居が進みました。これは定住都市むなかたが目指すモデルになると感じます。

公共交通において、将来を見据えて持続可能な交通体系をつくと同時に、公共交通を守るため利用しようという市民意識の醸成も必要です。のるーとは利用者、アプリ登録共に増加しており、CoCokaraひのさとに相談窓口、まちづくり宗像に予約受付を依頼することによりサービスと愛着が向上していくと思われます。この取組からのるーとの範囲や公共交通の意識を広げることが宗像全土の交通再編につながると考えます。

私が考える定住都市むなかたの目指す姿は、「宗像で育ち、外に出て、子育てで戻るまち」です。宗像の風土で生れ育ち、宗像を出て見聞を広めた後に、宗像でこどもを育てたいと選ばれるようなまちです。都市再生と共に魅力を際立たせる施策を展開し子どもを育てる、価値観が内に根付き外に伝わることで唯一無二のまちになると考えます。

ご意見、ご感想などメッセージ頂ければ励みになります！

f 日々の活動はfacebookにて
fb.me/goyo4da

吉田ごうのホームページ
non3.jp/yoshidago

一般質問の会議映像は
宗像市役所HPにて

民間事業者と連携して島の進展を！

甘夏の耕作地を開拓！木を切り、重機で運び、整地をして苗を植えます。私はチェーンソーで木を切る役目。島の住民が自由自在に重機を操り、島外人材の植栽のプロと伐採し、島内外で力を合わせます。



令和5年度施政方針では、離島の振興について、民間事業者の連携や島外人材の積極支援策を打ち出しています。近年は、島外からの事業者や団体からの働きかけが多く見受けられ、島の魅力をブランディングし、活性化のエンジンとするチャンスだと感じます。

大島では世界遺産の絶景を楽しめる乗馬、10月にオープンするバギーグランピング施設、民泊、旧村役場をリノベーションしたコミュニティスペースなど多様な動きがあります。

また、団地再生のチームメイトが立ち上げた2つの団体を紹介します。

「実践共同体COP大島」は、当事者意識を持っている島内外の関係者が参画し、高齢化や人手不足などの地域課題に長期的に取り組む仕組みづくりが目的です。まずは耕作放棄地の甘夏の栽培を行い、大島ブランドの構築に取り組みます。

「株式会社大風」は農業、漁業、民泊を実践しながら、地域同士の連携を図ることで、人々のひっさつわざを生かせる地域づくりをプロデュースから運営まで行い、地域と一緒に実現していくことを目指しています。島全体の伝統の継承、そして経済の活性化を両立させながら、地域間ネットワークとそれに伴う新たな都市経済圏をつくっていきます。

島を活性化するには、このような人財と同じ熱量で共に活動していくことが必要で、この大きなチャンスを逃してはならないと感じています。私は20代に屋久島で、各地から集った若者と自給自足の生活で畑仕事をしていました。その経験を懐かしく感じながら50代の挑戦として、この島活動を手伝っていきます。

吉田こう 議員活動ダイジェスト

宗像市議会議員 吉田こう

昭和48年 3月、宗像市田熊生まれ
東郷小学校～中央中学校卒業
平成3年 宗像高校卒業
平成8年 福岡大学経済学部卒業
平成8年 株式会社トランスオービット(旅行業)
入社、平成24年6月退社
平成24年 10月、宗像市議に初当選
令和2年 宗像市議に三選を果たす
現 在 宗像市久原に在住

1月 50代になる節目の年。十年一昔といいますが、10年タームの目標を考えました。会派・志政クラブの視察では東京で各省庁からのレクを受け、官僚の方々に地方の実情を伝え、議論しました。ついでに皇居ランを楽しみました。

2月 市政報告会を行いました。コロナ禍を経て4年ぶりの開催です。顔をあわして話ができることに感謝。ひのさと48では行政視察の対応から、伐採した木の処理まで全身使って活動します。

3月 定例会の予算審議では、アフターコロナの宗像がどうあるべきか、という視点から各種事業について質疑しました。

